

2021 年度採択団体

2021 年度 Let's びぎんプロジェクト採択団体は以下の通りです。

教えて！ ジャーギーさん🐮～実験牛から次世代の畜産へ～

プロジェクト概要

広い緑の大地で、牛たちがのびのびと草を食べている。

農家が牛を呼ぶと牛舎に集まってきて、牛乳を搾り、搾り終わった牛からまた野原へ戻っていく…。

牧場や酪農、畜産のイメージといえばこのようなものでしょうか？

何にでも理想と現実には違いがあるものですが、畜産においてはその差が大きいと感じています。

近年、畜産に対する疑問や批判を目にすることが増えてきました。その中には、確かにその通りと思えるものから、ほとんど言いがかりの中傷まで様々です。

歴史を紐解くと、文明開化から戦後復興、高度経済成長を経て畜産の形は大きく変わりました。資本主義の先進国となった日本で畜産農家が生活し、家族を養うためには効率よくお金を稼がなければいけません。しかし現代ではその効率重視の畜産が見直されつつあり、また一つの過渡期を迎えつつあるように感じます。

人も動物も心身健康で、経済的にも環境的にも持続可能な畜産。

これが次世代の畜産のあり方と考え、私たちは実際に牛を飼うことにしました。

牛は大学で実験用に飼育されていた去勢済みジャーギー種 3 頭。

好きなだけ運動して草を食べられる放牧で、輸入飼料や穀物を与えずにあくまで草食動物として飼い続けます。

牛にとって自然な飼い方で育て、広報や販売、消費までを学生が追うことにより、次世代型畜産として利益につなげられたら、と思うのです。

さらにこの過程の情報を発信し続けることで、この数十年で大きく開いてしまった消費者と畜産現場の溝を少しでも埋められたら、それ以上のことはありません。

誰に見せても後ろめたくない、胸を張れる畜産を私たちは目指します。

ひとこと

活動は Facebook で順次報告していきます！

<https://www.facebook.com/groups/502681891044173>



プロジェクト概要

平等、平和、SDGsと謳われる先進国日本でも、未だ障がい分野への理解は十分に進んでいません。そこで障がいを持つ当事者である私たちが、岩手大学生に障がいについて知ってもらったり、考えてもらったりする機会を提供し、より多面的・多角的な視点を持つ岩大生の成長を願って活動を行なっています。プロジェクトの目的は、岩手とネパールの「働く障がい者」について発信し、障がい者に対する理解促進と、雇用問題の改善を目指すことです。この目的を達成するために私たちは以下の3つの事に取り組みます。

1. 岩手とネパールの「働く障がい者」の動画を作成し配信する。
2. 障がい分野で働く方をお呼びし、ワークショップを行う。
3. ネパールの障がい者が日本で展開可能なオンラインショップを開設する。

期待できる効果は以下のとおりです。

- ・岩大生の障がい分野への意識向上
- ・岩大生の障がい分野へのアクション
- ・ネパールとの異文化交流/理解
- ・ネパールの雇用問題の改善
- ・持続可能なプロジェクト

以上「働く障がい者に光を！～岩手×ネパール～」をよろしくお願いいたします。

ひとこと

私たちは、努力やスキルが障がいの有無に関わらず正当に評価されることを願っています。健常者中心の社会によって埋もれてしまっている方にスポットライトを当て、「こんな可能性があるんだ！」ということを皆さんに知っていただきたいと思います。



代表とネパールのろう者



手足が無いが、口で絵を描くネパール人